

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーは世界をつなぐ

ROTARY CONNECTS THE WORLD



ロータリーの輪を今

RI会長 マーク・ダニエル・マローニー 2019～2020

富津中央RC会長 平川 恵敏

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2610 第29回例会 2020. 2. 20 晴

点 鐘：平川恵敏 会長
進 行：岡田良弘 SAA
ソング：奉仕の理想
お客様：富津市教育委員会指導主事
川島壱朗様

会長挨拶

平川恵敏 会長



皆様今日は。

まず最初に、本日の卓話(講演)をしていただく講師の先生を紹介させていただきます。富津市教育委員会の川島壱郎先生です。

〈富津市における東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み〉についての講演をして頂きます。後ほど、高島先生にご紹介をお願いいたします。

2月8日、9日の地区大会に多数参加して頂きまして有難うございました。盛況のうちに終わりました。また、2月29日(土)午後のIMに多くの参加よろし

くお願い致します。2月27日(木)は休会となります。

現在、コロナウイルス肺炎が蔓延しております。この先どうなっていくのか。手洗いとマスク励行との事。十分注意して健康にお過ごしください。

さて、2月と言えば如月(きさらぎ)です。2月3日は節分です。2月4日は立春で冬と春との分かれ目で春のはじめを言います。また、2月18日頃は雨水(うすい)と言い雪や氷が解け草木が芽を吹く頃で農耕を始める目安となります。

梅、桃、桜が咲き誇る春が待ち遠しいですね。

幹事報告

高橋裕之 幹事



- 2019学年度米山記念奨学生・修了式および歓送会の案内受領。榎本カウンセラーに。
- 地区よりチャリティコンサートの案内を受領しましたが、中止の案内が届きました。
- コーディネーターニュース3月号受領回覧。
- RLIパートIIの案内受領回覧。

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館 Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>
Mail home@futtsuchuo-rotary.org



5. ハイライトよねやま Vol.239 受領回覧。
6. 地区ローターアクト年次大会の案内受領回覧。
7. RYLAセミナー礼状受領回覧。
8. 『地区先達と語る「私のロータリー」の集い』開催案内受領回覧。
9. IMのプログラム受領回覧。
10. 木更津RCより休会の連絡。
3月19日(木) 休会 定款第8条第1節c項
11. 上総RCより会報受領回覧。
12. ホノルル国際大会案内受領回覧。

誕生祝



鈴木俊吉 S5. 2. 25

誕生祝一言

鈴木俊吉 会員



誕生祝いをいただき有難うございました。富津中央ロータリークラブにお世話になりまして3年目になります。年ばかり取りまして90代になりました。

まだ、しばらく皆さんにお世話になります。宜しくお願ひ致します。

卓話

講師紹介

高島治雄 会員



『富津市の2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み』

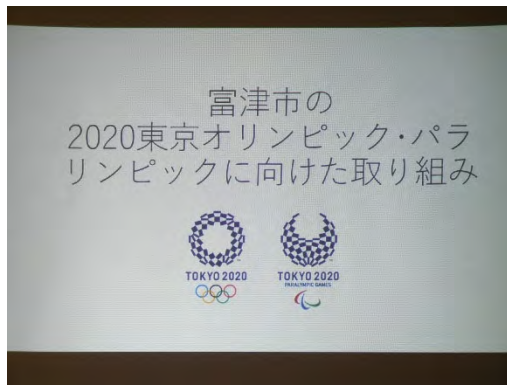
川島孝朗 富津市教育センター指導主事



富津市教育センターに勤務しております川島と申します。今日は富津中央ロータリークラブにお招きいただきまして有難うございます。「富津市の2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み」について、お話しさせていただきます。

富津市のオリンピック・パラリンピック教育の目玉は、何と云っても、今年の夏に開催される2020東京パラリンピックの観戦に小学校4年生以上と中学生全学年で行くことです。

人数にすると計1,700人近くで観戦に行くこととなります。勿論引率者もいますから、2,000人ぐらいになります。チケットも確保されています。これは、市長や教育長の「何とかして富津市の子供たちにパラリンピックの観戦を体験させたい」という熱い思いのもと実現に向けて取り組んできた結果です。



オリンピック・パラリンピック教育とは

オリンピック・パラリンピック教育、通称オリパラ教育とは何かということについてお話をします。

富津市の児童生徒がパラリンピック観戦に行くのは、オリパラ教育の一環なのですが、今年度オリンピック・パラリンピックがあるからその年だけ行えば良いというものではありません。2020東京大会の開催を、スポーツの関心を高めることは勿論、多様な国や地域の文化の理解を通じて、多様性の尊重や国際社会に寄与する態度、多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への思いやりを子供たちに培っていくことの契機としていかなければなりません。

千葉県では、おもてなしプロジェクト、心のバリアフリープロジェクト、スポーツプロジェクト、グローバルプロジェクトの4つのプロジェクトを揚げ、各学校で取り組むことになっています。例えば、心のバリアフリープロジェクトでは、道徳科においてパラリンピックの選手の生き方を学ぶことなどです。「I'm POSSIBLE」のような新しい教材を例え用いなくとも、オリンピック・パラリンピックをきっかけに、これまで行ってきた実践に一工夫したり、価値づけをしたりすることで、多様性の尊重や国際平和に寄与する態度を養うことができれば良いわけです。

では、富津市では、なぜパラリンピック観戦に行くのかということですが、パラリンピックは、多様な人たちがともに助け合いながら生きていく、「共生社会」を具現化するための重要なヒントが詰まっている大会だからです。そこで得られるヒントは、富津市のキャッチフレーズである人と人がつながる「あったか富津」の実現にもつながると考えました。

実際に会場に行って観戦することで、肌感覚とし

てこうした力を感じ取ることが、子供たちにとっての力となるのではないのでしょうか。そして、その力を富津市が目指す、心豊かでたくましい児童生徒の育成につなげていきたいと考えています。

富津市学校教育の指針との関連

～なぜパラリンピック観戦か～

◎共生社会(=人と人がつながる「あったか富津」)を具現化するための重要なヒントが詰まっている大会

(1)「パラリンピックの4つの価値」に触れるチャンス

- ・マイナスの感情に向き合い、乗り越えようとする精神力
- ・困難があっても、諦めずに限界を突破しようとする力
- ・ひとの心を揺さぶり、駆り立てる力

・多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力

(2)心豊かでたくましい児童・生徒の育成につなげる

・多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への思いやり

・人権意識の高揚

・福祉教育の充実

パラリンピック種目

東京パラリンピックでは全部で22種目開催されます。このうち、千葉県で開催される種目は、シッティングバレーボール、ゴールボール、テコンドー、車いすフェンシングです。大会に観戦に行く事前や事後に実際に生徒児童が体験しやすいという観点からは、シッティングバレーボールとゴールボールが候補にあがりました。

シッティングバレーボールは、主に脚に障害のある方が座ったまま行うバレーボールです。ゴールボールは、主に目に障害のある方が鈴の入っているボールを投げ合い、得点を競う競技です。選手は音を頼りに競技をするため、観客はプレー中に声を出してはいけません。

小中学生の応援のしやすさという視点から、シッティングバレーボールとゴールボールを観戦することに決めました。

ご清聴有難うございました。



ニコニコ BOX

栗原典子 親睦担当部長



高橋裕之 iPhone が壊れたお陰で最新モデルになりました。

出席報告

高島治雄 出席担当部員

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	38/34	20	14		58.82%
前回	38/35	19	10	6	71.43%
前々回	38/32	22	10		68.75%

編集後記

富津市教育センターの川島指導主事からの講演を聞かせていただいた。2020 東京パラリンピックの2つの競技を富津市内の小学生4年生以上と中学生全学年の児童生徒が観戦されるようです。観戦の目的などわかりやすく話されました。

是非心に残る観戦をし、これからの生活に生かしていただきたいと思います。オリンピック・パラリンピック競技について『2020東京大会オリンピック・パラリンピック組織委員会の冊子』に掲載されていた記事の一部を以下に抜粋しました。

オリンピック・パラリンピックの歴史

近代オリンピックの歴史

欧米列強各国が植民地獲得戦争(帝国主義)に突き進んでいた19世紀末、フランスのクーベルタンは、「スポーツと芸術を通して調和のとれた人間を育て、世界平和に貢献する」ことを提唱し、古代において行われていたオリンピックを復興してオリンピックの理念(オリンピズム)の普及を目指しました。日本では嘉納治五郎を中心にオリンピズムの普及につとめました。

パラリンピックの歴史

近代オリンピック創始から50年、イギリスでパラリンピックの原点となる大会が行われました。1944年から戦争で傷ついた兵士の治療にあっていた医師であるグットマンが、リハビリテーションにスポーツを導入し、1948年、ロンドンオリンピック開会式と同じ日に、自らの病院で車いす患者によるストーク・マンデビル大会(アーチェリー大会)を開催。この大会が後に、パラリンピックへと発展しました。現在は1989年に創設されたIPCが主催し、4年に一度開催しています。

パラリンピックの父と呼ばれているルードウィヒ・グッドマンは、英国ストーク・マンデビル病院の医師として傷痍軍人の治療にあたった。患者が社会復帰するためにスポーツの重要性に気づき、患者のための競技大会を開催。この大会がのちにパラリンピックに発展し、更にオリンピック開催年に、同都市で開催されるようになった。

「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」という理念を後世に遺した。

日本パラリンピックの父と呼ばれる医学博士の中村裕氏は英国ストーク・マンデビル病院に留学してグッドマン医師の教えを受け1964年東京で国際身体障害者スポーツ大会の実現に向け尽力した。「保護より機会を」を理念とした。(わかなべ)